

持続型農業生産技術分野 この1年

持続型農業生産技術分野長 准教授 平田統一

コロナ禍の中で不自由な日常が続いた2021年から飛躍の寅年2022年に衣替えし、今年こそはコロナも収束して存分に力を発揮できると期待したのも束の間、オミクロン株の蔓延で出鼻を挫かれてしまいました。FSCの活動ももうしばらく我慢の日々が続きそうです。

2021年も不順な気候が続き、春先の大雪や大風によってビニールハウスや牛舎に被害があり、リンゴでは晩霜害と黒星病が多発しました。自然災害に加えて米価や子牛価格の下落もあり、収入は下降気味です。生産物を販売して大学に収入をもたらすこともFSCの重要な使命になってきており、増収に向けてどのような算段ができるか智慧が試されているところです。

持続型農業生産技術分野が担当する実習や演習の多くは、工夫を凝らしつつ対面で実施することができました。たとえば農学部1年生ほぼ全員(230余名)が履修する「総合フィールド科学実習」では、実際に作物に接する意義に加えて、新しい学友との三密の懸念が少ない屋外で交流を深められる活動が好評で、「実習」の多面的な重要性を再認識させられた1年でした(FSニュース No.37)。一方で、御明神牧場において毎年恒例になっていた公開講座「親子で楽しむ牧場体験」や共同獣医学科の東京農工大学学生の総合参加型臨床実習などは2年続けて中止となり、一部実習は上田キャンパス構内での実施に振替となるなど、苦慮しながらの施設運営となりました。

対外的な活動では、県内高校生を対象に「第2回大学農場で体験する食と農と生物学」を開催し、定員オーバーで当日参加できなかった高校生を対象に別日程で実施するほどの盛況でした。また、個別型哺乳ロボットや優良血統牛を短期間に大量増殖するOPU-IVP技術など、高度な技術の移転を行う研修会を開催しました。

施設関係では、御明神総合施設の学生宿泊棟のトイレが改修され、学生に好評です。このように短い期間でも様々な工夫と整備を行い、分野の機能を高め、学生と地域社会に対する責務を果たす努力を継続した1年でした。



個別型哺乳ロボット研修会において、御明神牧場の技術職員(桃田優子)が牛舎内で普及員など参加者に説明している様子

循環型森林管理技術分野この一年

循環型森林管理技術分野長 教授 山本信次

演習林は岩手県において蔓延しつつある松くい虫病、ナラ枯れ病に対応するため、通常の森林保育からもたらされる素材量を上回る生産となり、結果として2,869m³の木材を販売しました。

こうして生産されたアカマツの一部は神社仏閣などの文化財などに用いられる優良材として出荷され、好評を博しています。演習林の一部はこうした文化財補修・復元のための「ふるさと文化財の森」に指定されており、今後ともこうした社会貢献を継続する予定です。

学内実習利用に関しては、コロナ禍により宿泊予定のものを日帰りに切り替えたものの、すべての実習を予定通り実施することができました。

また演習林は文部科学省から「教育関係共同利用拠点」としての認定を受けておりましたが、今年度から5年間の更新認定を受け、新たなスタートを切ることとなりました。コロナ禍を受け、当初予定通りとはいきませんでした。近隣の大学にターゲットを絞った日帰り利用の拡大、オンラインによるプログラム実施などの工夫を重ね、今年度は他大学向けの単位認定に係る授業科目は8科目、利用人数は延べ275人、利用大学は鹿児島大学、富士大学、岩手県立大学、京都大学、筑波大学の5校となっております。このように新たなスタートを切った共同利用拠点事業ですが、来年度からもさらに内容の充実や拡大に向けて取り組むこととしています。

最後に演習林では今年度から新たな技術職員二名を迎え、半年間のOJT研修により最低限の森林管理技術を身につけてもらい、10月からは作業チームの一員として森林管理作業に取り組んでもらっています。危険を伴うこともある森林管理の現場ですが、安全第一を旨として、今後ともより良い森づくりに努めてまいりたいと思います。



岩手県立大学 専門演習入門
令和3年10月27日撮影

新任教員の紹介

このたび、本センター演習林の助教として勤務いたします。
本年1月末まで演習林の特任助教として教育関係共同利用拠点(以下、利用拠点)の取り組みを担当してまいりました。

実習を通じて学生が普段の学びとは違う気づきを得る姿を見ると、実習を実施できたことへの安堵感を覚えると同時に利用拠点としてよりよい環境とは何なのか考えさせられます。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて満足のいく活動は難しい状況ですが、利用拠点の取り組みが維持されてきたのもセンターの皆様のご協力の賜物です。引き続き利用拠点の取り組みに携われることをうれしく思っております。

しかしながら、演習林教員の業務について、まだわからないことも多く初心に立ち返り一から学び直し、演習林の持続的な運営に少しでもお役に立てるよう努めてまいります。至らぬ点多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



循環型森林管理技術分野
助教 高田乃倫予

令和3年度 エクステンション活動一覧

◆ 職業的専門家(経営者・技術者等)を対象とするもの

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1) 牛の臨床繁殖検査等に関する技術研修 | ● 期日：令和3年6月2日(水)～6月25日(金) |
| 2) 岩手ブルーベリーの会 栽培講習会 | ● 期日：令和3年6月30日(水)、7月7日(水) |
| 3) (一社) 岩手県緑友会 樹木判別勉強会 | ● 期日：令和3年7月2日(金) |
| 4) 第88回フォレストテクニカルエクステンションー地域林業支援プログラム(13) | ● 期日：令和3年9月2日(木)～10日(金) |
| 5) いわてアグリフロンティアスクール「農業技術先進地研修2」 | ● 期日：令和3年9月15日(水) |
| 6) 岩手・宮城県林業経営者協会合同研修会 | ● 期日：令和3年10月4日(月) |
| 7) 岩手・宮城県林業経営者協会合同研修会 | ● 期日：令和3年10月18日(月) |
| 8) 個別別型哺乳ロボットシステム研修会 | ● 期日：令和3年10月28日(木) |
| 9) 特) 岩手森林再生研究会 | ● 期日：令和3年10月30日(土) |
| 10) 第86回フォレストテクニカルエクステンションー岩大型作業路普及プログラム(48) | ● 期日：令和3年11月1日(月)～2日(火) |
| 11) 牛の生体内卵子回収、体外胚生産技術に関する技術研修(基本技術編) | ● 期日：令和3年11月10日(水)、11日(木) |
| 12) 第87回フォレストテクニカルエクステンションー岩大型作業路普及プログラム(49) | ● 期日：令和3年11月16日(火) |
| 13) 牛の生体内卵子回収、体外胚生産技術に関する技術研修(産業応用編) | ● 期日：令和3年12月16日(火)～18日(木) |
| 14) 牛の生体内卵子回収、体外胚生産技術に関する技術研修(産業応用編) | ● 期日：令和4年2月28日(月)～3月12日(土)(予定) |
| 15) 岩手ブルーベリーの会 剪定講習会 | ● 期日：令和4年3月26日(土)(予定) |

◆ 一般市民・児童生徒を対象とするもの

- | | |
|---|-----------------------|
| 1) 第166回フィールドセミナー(総合的学習時間における森林学習(47)) | ● 期日：令和3年7月5日(月) |
| 2) 第167回フィールドセミナー(総合的学習時間における森林学習(48)ー技術職員と学ぶ森林作業ー) | ● 期日：令和3年7月6日(火) |
| 3) 公開講座 第2回大学農場で体験する食と農と生物学 | ● 期日：令和3年7月29日(木) |
| 4) テンパーク子ども食堂(国立岩手山青少年交流の家教育事業) | ● 期日：令和3年10月9日(土) |
| 5) 公開講座 第168回フィールドセミナー 親子シリーズ(31) | ● 期日：令和3年11月7日(日) |
| 6) 公開講座 第169回フィールドセミナー 親子シリーズ(32) | ● 期日：令和4年3月27日(日)(予定) |

◆ センター開放的事業

- | | |
|--------------------|---|
| 1) 花苗販売会 | ● 期日：令和3年4月7日(水) |
| 2) ブルーベリーとエダマメ摘み取り | ● 期日：令和3年7月15日(木)、7月19日(月)、7月22日(木)、7月26日(月)、7月30日(木)、8月5日(木) |
| 3) 第25回森の駅市場 | ● 期日：令和3年8月5日(木) |
| 4) 第26回森の駅市場 | ● 期日：令和3年11月26日(金) |
| 5) リンゴ即売会 | ● 期日：令和3年12月8日(水)、令和4年1月12日(水) |